

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年5月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200168
法人名	特定非営利活動法人ケアネットあいら
事業所名	グループホームにしきえ
所在地	鹿児島県始良市加治木町木田1133番地 (電話) 0995-62-5650
自己評価作成日	平成31年4月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス、地域における認知症ケアの拠点として、困った時、いつでも気軽に相談や来所して頂けるよう、戸外に掲示板を設置し活用しています。また、施設が核となった介護劇などを地域や学校で実施しており、理事長、管理者共に地域の様々な役員も兼ね、色々な機会に認知症の啓蒙活動を行っています。また、平成30年12月より隣接している小規模多機能ホームにしきえを看護小規模多機能ホームにしきえに事業転換し地域の認知症高齢者の中心拠点であり、看護面でも特化した力を発揮できるよう、地域の方々と共に助け合い、良好な関係性を構築し安心して生活を送ることができるようお手伝いができたらと考えております。当ホームの特徴として、全ての居室からの外へ出れる開放的な構造になっており、防災、非常時の観点からも訓練時にしっかりと活用されております。隣接地の地域交流センターも、地域の敬老会や勉強会、サークル活動等の様々な催しなどに利用して頂いております。また、看護小規模多機能ホーム共々、ご利用者様方の日々の活動や生活の様子などをホームページやFacebookなど活用し発信しております。特に遠方にお住すまいのご家族からご好評頂いております。毎週火曜日13:00より近隣のイオンタウン始良にて地域のコミュニティーFMで「ケアラボ～はじめの一步～」のタイトルにおいて介護についての情報発信を行うなど今後もしっかりと色々な機会をとらえて地域に発信していきたいと考えております。また、事業所内での内部研修等も介護実技研修と題し、毎月適宜職員のスキルアップを図る研修等も実施しております。また、職員の確保として今年の9月よりベトナムから2名の外国人技能実習生の採用を予定しております。

当ホームは、幹線道路から近く、病院や学校、文化会館などが近隣にあり、同敷地に小規模多機能ホームや地域交流センターを併設している。小規模多機能ホームとは、2ヶ月に1回、運営推進会議を合同で開催し相互の協力や連携が図れるよう地域との関係性を深め地域の中で暮らせるよう目標を共有している。また、地域交流センターは、運営推進会議の開催に活用したり、地域の方々が各種会合や地域活動に使用するなど積極的に活用されている。また、防災のための備蓄も保管されている。

管理者や職員は、家族の面会時に、「ご家族連絡帳」を記載してもらって、出された意見、提案などをミーティングなどで話し合い、サービスの見直しや質の向上に活かすよう取り組んでいる。面会時、居室で本人、家族がゆっくりと歓談できるよう配慮するとともに、話しやすい雰囲気作りに努めている。

ユニット間を自由に行き来ができるよう環境整備され、職員も互いのユニットの利用者の情報共有を行い、職員間の協力体制が構築されている。採用が難しく、職員不足が浮き彫りになっているため、管理者自らがベトナムへ渡り、現地で2名の外国人技能実習生の採用をしている。今後、さらなる職員の就業環境の整備を図り、働きやすい職場環境を整えるなど勤務体制を検討し、サービスを充実したいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	仕事を始める前に職員全員で理念を確認し意思の統一を図っている。	理念は、玄関や事務所などに掲示され、重要事項説明書にて利用者や家族に説明し共有されている。職員は、朝礼時、理念や毎年度の標語を唱和し、コンプライアンスルールを確認してケアに対する意思統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り回覧板を通じて地域の行事等を知る。可能な限り交流している。初午を施設に呼ぶなどして、地域の方々にも見学してもらうなどの交流もある。	管理者や主任などを中心に自治会活動にも熱心に取り組んでおり、独居高齢者の支援活動や地域行事への協力も積極的である。回覧版や掲示版など活用し、地域の情報収集をしたり事業所情報を発信し、「にしきえカフェ」などは地域交流の場として活用され、地域とのつきあいが日常的にある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所からの地域の方々にFMラジオ（ケアラボ・はじめの一步）の放送や校区内行事参加を通じて情報等を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、運営推進委員会を開き、サービス向上に活かしている。会議内容は職員全員に報告があり全体共有している。	会議は、地域交流センターを活用し隣接の小規模多機能ホームと合同で実施されている。管理者は、地域の実情を把握したり、職員と連携して利用者の安定した介護の実現に向けて職員の雇用体制などに理解を求め、相互に協力関係が築けるよう意見交換している。出された意見などは運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>ケアマネージャー、管理者を通じて、担当者と連携をとっている。</p>	<p>市担当者や福祉事務所職員、始良・伊佐連絡協議会などとの連携が日常的にあり、年1回、小・中学校の介護劇にて認知症の啓発活動に努めたり、事業所のフェイスブックを通じて利用者の介護の状況や介護情報などを発信している。また、管理者は、地域ケア会議や地元ラジオ番組を担当し、広く福祉関連事業に携わり協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>月一回の会議、そして朝の申し送り等で身体拘束について研修や細かい確認をしている。</p>	<p>職員は、朝礼時にコンプライアンスルールを唱和し、身体的拘束等の適正化をすすめている。現状の介護方法やセンサー類を活用することが行動制限や権利侵害などに繋がらないよう正しく理解しサービスが提供できるよう毎月会議を開催したり、カンファレンスや担当者会議などで廃止に向け話し合っている。会議や研修内容は、職員全員に周知されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング、朝の申し送り等で虐待防止について話し合いを持ち、常にケアの確認をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が情報を会議で発信してくださり、職員間で学ぶ機会が持てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問題が生じないように、管理者が十分な説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも、ご利用者様、家族の意見を受け付けており、管理者・職員で共有している。外部者へは掲示板に月一回の通信を掲示している。</p>	<p>利用者や家族とは、信頼関係が築けることを心がけるとともに、忌憚なく意見、要望が出せるよう面会時や行事、運営推進会議などを活用してコミュニケーションに努めている。面会時に「ご家族連絡帳」に記載を依頼し出された意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや申し送り等で意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>管理者は、個人面談やミーティングなどで意見や提案などを聞く機会を設けている。また、職員が交代で休憩を取りリフレッシュして職務に取り組めるよう工夫している。職員採用にも力を入れており、外国人技能実習生の受入れを予定している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各自の希望に沿った勤務体制をとって頂き、働きやすく、やりがいのある職場環境になっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内研修は確保・計画・実施している。他の施設主催の研修会に際しても力量に応じて参加の促しや研修費の補助も行っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現状、職員が同業者と交流する機会があまりない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活できるように環境づくりに努め会話をし、不安を和らげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と会話を持ち関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者の指示のもと対応に努めている。 (あらゆる情報を確認し支援を見極めている)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中の本人の「できること」を応援し支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、居室でゆっくりと過ごしていただいたりホールで皆様とレクを楽しむ姿を見て頂くなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来ていただけるような、環境、雰囲気作りに努めている。	徒歩で帰宅できる距離の方や旧加治木地区の方の入居者が多いことから、自宅訪問や外出の機会があり、近所の方の訪問も多く日常的に交流がある。職員は、地域交流センターや小規模多機能ホームの利用者との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が良好な関係を保てるよう職員が配慮し、一人ひとりが孤立することが無いように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にしながら管理者が連絡をとり相談や支援に努めている。終末期においてもご家族の状況（遠隔地に居住等）に応じてフォローを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中で本人の希望や以降の把握ができるよう努めている。そのことをカンファレンス時に多くの情報を職員に出してもらうことで思いの把握を行っている。	職員個々の気づきは、ホワイトボードに記載され、利用者の思いを共有し役割を果たし居心地のよい場所が確保されるようカンファレンスなどで話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や家族から生活歴や昔の話を聞き、その方の生活歴を把握し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活の中でも一人ひとりの生活リズムを把握し、その方に合った生活ができるように石を尊重できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2回ミーティングやカンファレンスを行い、ご利用者様のケアに対し協議、プランに反映している。	アセスメントの結果、本人が主体的に生活活動に取り組めるよう話し合われた結果が反映された介護計画書である。職員は、定期的にモニタリングをしたり、目標やサービス内容などを見直しチームケアに取り組み実態に沿った介護計画書を作成するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日始業前に申し送りノート、業務日誌等で確認し、週行事は一日の様子を業務日誌にしっかりと残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するご利用者様の状況に伴い、その都度職員全員で支援の在り方を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の運動会やその他、行事などにできるだけ参加できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や体調不良、急変時等しっかりと関係医療機関と相談をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医であるが、訪問診療や職員が付き添い外来受診するなどして適切な医療が受けられている。家族には、その都度報告し訪問看護や他専門職との連携があり、24時間医療支援が受けられる体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>小さな気づきを大切に看護職員に報告・連絡・相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>地域の医療機関との定期的な会合に毎回参加しており、管理者・看護師等良好な医療機関との関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早期の段階から管理者・看護師の指示のもと、チーム全体で支援している。</p>	<p>看取りの経験もあり、重度化した場合のホームの方針を共有し、同意書にて意思確認し早い段階から主治医、家族、職員や関係機関などと話し合いながらチームケアにて取り組めるよう支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訓練、研修はしているが、個々の実践レベルは統一されていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な訓練を実施している。台風接近時にすべての利用者が近隣の公共施設に避難を行うなどして実情に応じた訓練も行ないました。</p>	<p>日常的にミーティングなどで避難方法について話し合いをしたり、自己点検を徹底している。また、始良市と防災の避難協定を結び協力関係を築いており、地域交流センターには、防災グッズが常時保管され、有事に備えている。居室は掃き出し窓からウッドデッキへと出入りが可能であるため避難に適している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴や生活など尊厳を尊重した対応に努めている。	毎年度、接遇マナーの研修会を実施、コンプライアンスルールは朝礼時に唱和され常に意識して職務に取り組むよう意思統一を図っている。さんづけで呼びかけ丁寧語を意識しているが、本人の理解力などを考慮し本人に合った声かけをするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様からの希望が聞けるように〈普段からのコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時、その場におけるご本人様の希望をゆっくり傾聴し、思いが優先することができよう、見守りにも心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床の際の整容や普段の生活の中でもご本人様に衣類等はしっかりと選択していただいたり身辺整容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てのご利用者様ではないが、職員支援のもと調理等出きることをする機会をもてるようにしている。	菜園で利用者と収穫をした旬の新鮮野菜や家族の差し入れなどを調理に活用している。七夕、敬老会、クリスマス会は家族と一緒に食卓を囲む機会を設けているが、外食は家族に協力ももっている。弁当を持って花見などに出かけることがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回、適宜の体重測定等を行い、体調や体重変動に気配りし支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア等言葉かけにて自立支援の基、できること、できないことをしっかりと見極め、できないことに対し支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	持っている力がしっかりと発揮できるよう自立に向けた支援を行っている。	排泄のリズムを把握して、トイレで排泄ができるよう支援している。昼間の活動性を高め夜間は、十分な睡眠が取れるよう工夫するとともに、食事面や水分補給、運動などを取り入れるなどして排便習慣が整うようケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や定期的なレクリエーション活動や体操等通し予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	実情、入浴を拒否される方もおられるが、快適な入浴環境を提供できるよう支援をしている。個々の願いを叶えたいが、出来ない事もある為、工夫を模索中。	利用者の身体機能や必要性に応じて、入浴方法を検討し、職員の都合で時間などを決めてしまうことがないよう柔軟に入浴支援をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調等配慮し、午睡などでの休息、環境整備等努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報等常に確認できるようにしており、都度確認するとともに変化等に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適宜レクリエーションや嗜好調査などコミュニケーションの中で聞き取りを行い出来る限り配慮した支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望に沿う事は難しいが、家族との関係性を大事にし、定期的な外出やホームでの行事等における外出等適宜行っている。	自宅に徒歩で帰宅される方や小規模多機能ホームに遊びに行く方に付き添ったり、菜園の様子を職員と一緒に見に行くなどしている。また、本人の希望を把握し、計画して利用者全員で花見に行くなど、普段行けない場所にも出かけて外出や季節を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望に沿えるよう配慮はしているが所持は混乱が生じる為預かり支援に手対応している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様が希望時ご家族への電話等ができるよう対応しており、ご家族にも協力等して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花を飾ったり、湿度・光の調整や壁面等作成し季節感や時間の流れが感じられるようホームの空間作りに努めている。</p>	<p>共有スペースは、両ユニットの利用者が互いに行き交うことができる空間になっており、対面キッチンで広々としている。また、ソファが設置されテレビ鑑賞をしたりのんびり歓談できる場になっている。玄関には季節の生花が活けられ、空気清浄器を活用したり、掃除や換気などしているため清潔感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ゆっくりとくつろぐ時間や皆さままで一緒に余暇活動をしたり、思い思いに過ごしていただけるように支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅等で使用されていた家具や家族写真等を置きご本人様が居心地よく過ごして頂けるよう環境整備を行っている。</p>	<p>掃き出し窓から広々としたウッドデッキに出て、日光浴や布団干し、避難用通路として出入りができる居室である。生活習慣に配慮し、畳のゴザで過ごせるよう工夫したり、使い慣れた品を持ち込み居心地よく過ごせるよう配慮された居住空間である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者様にわかりやすいようにトイレや浴室、居室等表記をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない